

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	微小残存病変が陰性化した移植適応新規骨髄腫患者 80 例の解析
研究責任者	血液内科 石田 禎夫
研究機関名	日本赤十字社医療センター血液内科
研究目的と意義	骨髄腫の治療は長期間メルファラン、プレドニゾロン（MP）療法が標準療法であり、完全奏効（CR）率は 5%前後でした。日本では最近の 15 年間に新規薬剤が 10 剤承認され、深い奏効と生存期間の延長が得られるようになりました。さらに、2019 年から骨髄の形質細胞腫瘍の微小残存病変（MRD）の測定が健康保険で検査できるようになりました。しかし、CR を得られた症例であっても MRD 陽性であれば早期に再発すること、真の予後良好例は CR になり MRD 陰性を達成した患者であることが報告されています。当院で自家末梢血幹細胞移植（ASCT）を行った症例のうち MRD 陰性を達成した患者の予後を解析し、MRD を達成しても予後の悪い群を解析することで、MRD 陰性達成後の治療戦略の確立につなげていきたいと考えています。
研究方法	2016 年 1 月から 2021 年 12 月の間に当院で症候性多発性骨髄腫と診断された患者さんのうち、ASCT を施行した患者で MRD 陰性を達成した骨髄腫患者 80 例（年齢 34～72 歳，年齢中央値 57 歳）について無増悪生存期間、全生存期間を検討します。さらに予後不良群の診断時病期、FISH 検査データ、腎機能等を解析することで予後不良因子を同定し、今後の治療戦略を考察します。 倫理的配慮：上記解析は、個人情報保護に十分配慮した上で行います。情報は、個人名が特定されないようすべて匿名化されます。上記対象に該当される方で、本研究への登録を希望されない場合は下記までご連絡ください。登録を希望されない場合でも、診療上不利益を被ることは一切ありません。
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 担当者：石田 禎夫 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604